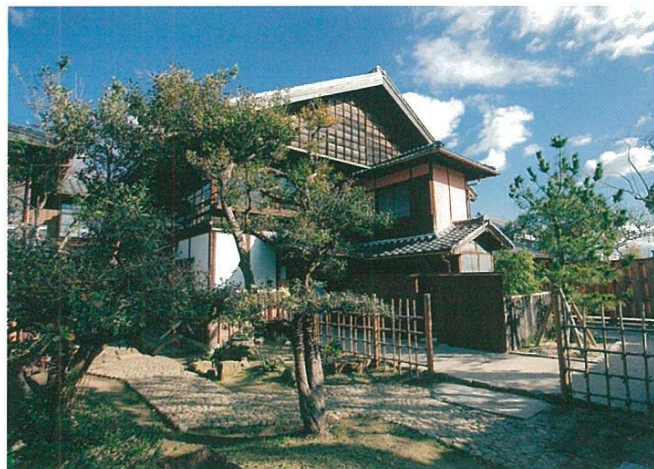




母屋



東門前の広場



日本庭園

庭園内のご案内

約3,000平方メートルある庭園は、市民の憩いの場、半田市を訪れる方々のおもてなしの場として開放されており、散策の一休みにちょうど良いあずまや、旧中塹半六邸の茶屋・飲食店などおくつろぎいただけます。昔ながらの黒壁の蔵を改装したトイレが特徴的です。



おとうふ湯業
いしかわ半六邸店



半六茶屋（テイクアウト）
半六サロン（カフェ）

イベント情報

半田運河の蔵の市

開催日：毎月第一日曜日 10時～15時

地産品、手づくり品の販売など、知多半島にちなんだお店がずらりと並びます。

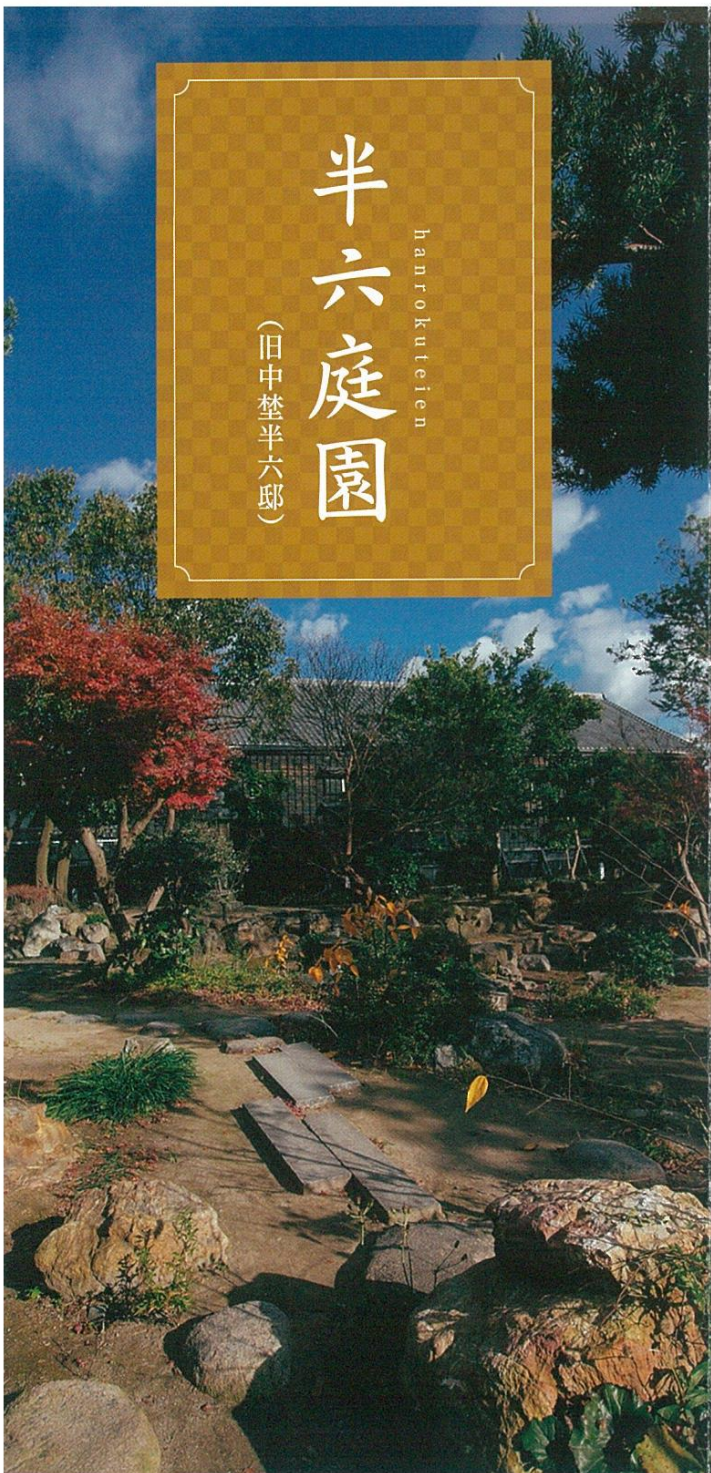
バンド演奏などのパフォーマンスも登場する「市」を開催しています。



半田運河

中塹半六邸の歴史

中塹半六家は、古くから当地方屈指の大地主のひとつであり、海運と醸造業など手広く商う豪商でした。
この庭園の東を流れる半田運河は、古くは阿久比川の河口をなしており、元禄年間から中国酒と呼ばれた当地の酒や酢などの醸造品を盛んに江戸へ船積みしていました。安政年間に、現在のような半田運河が整備されてからは、更に隆盛を極め、近世以降の半田の発展の原動力となりました。現在に残る屋敷と庭は、明治二十二年に築造され、かつては母屋をはじめ茶室や九つの蔵など、多くの棟が建ち並んでいました。回遊式の日本庭園の泉水は海水を引き込み、潮の干満にあわせて水面が上下したといわれています。
この広大な屋敷は、戦後の一時期、料亭や横綱大鵬の二所ノ関部屋に貸し出された他はほとんど使われることなく、荒れ果てた状態となりましたが、平成二十七年に半田市により庭園が、半六コラボにより母屋がリニューアルオープンされました。
旧中塹半六邸は、半田の歩みを物語る貴重な遺産の一つであります。



半六庭園

hanrokuteien
(旧中塾半六邸)

半六庭園

開園時間 九時～十七時

休園日 十二月二十九日～一月三日

入園料 無料

住所 半田市市中村町一七

お問合せ 〇五六九一八四一〇六八九 (半田市観光課)

半六サロン、半六茶屋

営業時間 十時～十七時 L.O. (十六時十五分)

定休日 木曜定休、年末年始

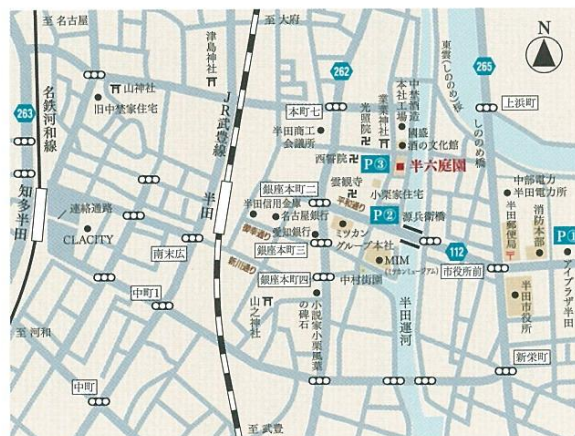
お問合せ 〇五六九一八九一八九二五

おとうふ湯葉いしかわ 半六邸店

営業時間 十時～十八時 (十八時以降のご利用は要予約)

定休日 木曜定休、年末年始

お問合せ 〇五六九一三二〇二二〇



アクセス [公共交通機関ご利用の場合]

半六庭園

- JR武豊線 半田駅 [徒歩 約7分 (500m)]
- 名鉄河和線 知多半田駅 [徒歩 約13分 (1,000m)]

お車でお越しの方

蔵のまち東駐車場 (247台) P①・蔵のまち見学者用駐車場 (No.1～12) P②をご利用ください。

おとうふ工房・半六コラボ (サロン・茶屋) 専用駐車場 (No.19～26) P③をご利用ください。



二階貸し部屋図



- 旧中塾半六邸
母屋二階のご案内 [貸し部屋]
- ― 聴松の間 (十二畳十六畳)
 - ― 大鵬の間 (十畳十板の間四畳)
 - ― 卯の間 (八畳)
 - ― 翼の間 (六畳)
- 特定非営利活動法人 半六コラボが管理運営する
半六邸二階の四つのお部屋を有料で貸出しております。
お茶会やアート展示、お稽古教室などにご利用ください。
お問合せ 〇五六九一八九一八九二五
(特定非営利活動法人 半六コラボ)
ホームページ <http://hanroku-collabo.org/>

昭和四十年代半ばから五十年代初めまで、大相撲名古屋場所の折には、二所ノ関部屋宿舎として使われており、母屋二階では、第四十八代横綱大鵬関が就寝していたといえます。大鵬関は、半世紀近く破られなかった本場所優勝三十二回の大記録を持つ横綱であり、亡くなる数年前にもこの地を訪れて、当時を偲んでいたそうです。